



SCMI創立61周年記念の9月17日、SCM校のキーは、28年間の重責を終えたガンダム学長からウロ新学長に渡されました。



2022年10月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

郵便振替口座 00210-5-72693

加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会



27年目に入ったミンダナオ島先住民族を支える活動、そのゴールを探る

SDGs6「正義と平和の実現」との関連で、ここ2回続けて触れたウクライナ情勢は、今もなお、国際社会最大の懸念事項ですが、今回は昨秋の107号同封の「ご挨拶」に関連して、私たちの活動の着地点を探るため、現地パートナー別に成果や課題を共有させていただきます。

＜ SCMSI及びILSと協働のチボリの子ども支援 ＞

上記タイトル「27年目・・・」、これは当団体(HANDS)発足の1996年を起点としたもので、日本の市民によるミンダナオ島先住民族支援は、1980年のチボリ国際里親の会(JOFPA)発足に遡ります。JOFFAは2013年に33年間の活動を終了し、私たちHANDSがその一部の活動を引き継いだことで、元JOFFA会員には支援歴40年以上の方もいます。

故藤原氏設立のJOFFAは、1960年代初期に設立の**サンタクルスミッション(SCM)**による環境や伝統文化保護、教育普及活動のうち、特に、里親方式による教育支援で大きな成果を上げました。公立校が増える中、SCM学校法人/SCMSIの30を超える教育施設は順次閉校、今年度は初等・中等の各2校と、町唯一のカレッジの計5校が、チボリの伝統継承を掲げる私学として運営されています。

JOFFAからの引継直後5%とすでに些少だったSCMSI運営に対する当団体の支援比率は、政府の私学支援でさらに低下し、運営支援は2020年度で終了、昨年度からは里子の奨学金支援等に限定しました。一方、SCM創立記念やクリスマス寄付など、チボリの子どもたちとの「絆・交流」については、今後もできるだけ継続の予定です。

また、2014年以降3年間、右欄下部で紹介のPFPと協働したレイクセブ町辺境のアグロフォレストリー事業では、近くに公立校がなく、未就学だった年少児童対象の**先住民族学校/ILS**を運営するアニータ先生との出会いがあり、2019年以降、教師給与や給食費などの定期支援を開始しました。

ILS校に対しては、定期支援と並行して自主財源事業の支援を開始。家畜繁殖や有機バナナ栽培などの財源創出事業支援により、教師給与や給食費などの定期支援については、2年以内の終了を目指しています。

＜ ビラーンの村の医療支援から始まったCMBとの協働 ＞

27年前の1996年当団体発足、そのパートナー・ビラーンカトリックミッション(CMB)は、その後「**先住民族カトリックミッション(CMIP)**」に改称。医療から始めた私たちとの協働も、給食や奨学金等の教育支援、持続可能な収入向上を目的とするアグロフォレストリー等農村開発、環境保全の活動に拡大しました。常に新たな辺境を目指すミッション・CMIPとの協働にはゴールはないかもしれませんが、多くの奨学生がすでに教育や行政の担い手となり、また、**タッドボルール住民組合/TBA**育成のボニファシオのように、地域のリーダーも育った今、私たちの「支援」も着地点に近づいたといえます。

一方、**パササンバオ医療サービス/PIHS**とチボリの**女性組合/COWHED**との協働はともに2002年からです。助産所運営やハンディクラフト販売等の自主財源を持つ両組織のうち、特にCOWHED製品は全国的に高い評価を得て、すでに数年前から私たちの支えは不要となりました。一方、PIHSについては、妊産婦や若い世代対象の研修など、辺境のコミュニティーでの活動は重要で、今しばらく支える予定にしています。

同じく2002年には、活動を終了した山口県のNPO、FOTによるブラクール校支援やアグロフォレストリー事業の引継ぎを通じて、**先住民族のパートナー/PFP**との協働が始まりました。

PFPは諸事情で2020年度に活動を終了したため、23地区の各種苗木約25万本の成長を見届ける作業は、住民と私たちに託されました。「支える」活動に終了はあっても、「**現地に学び、交流する**」は続きます。コロナ後には、皆様と一緒に現地の村々を再訪できたらと思っています。(山崎)